快適・創造・イノベーション

可とう形改修塗材・防水形複層塗材

ダイヤ アクレスフィラーダンセイ

JIS A 6909 可とう形改修塗材E・防水形複層塗材E（適合）　F☆☆☆☆

『ダイヤアクレスフィラーダンセイ』は 防水形複層塗材の規格に対応した弾性フィラーです。

- 従来の微弾性フィラーでは対応できなかった高弾性塗材の改修に適用可能。
- 中毛ローラーによる薄塗仕様でも防水効果の付与が可能。
- シーリング上に施工した場合、塗膜のひび割れを軽減する効果。
- 粒子が細やかなため上塗の光沢感が向上。

防水性
従来の微弾性フィラーに比べ防水性に優れています。
JIS仕様でJIS A 6909
防水形複層塗材E規格適合

中性化抑止効果
ガス遮蔽効果により、躯体の中性化を抑制し、建物を保護します。

ひび割れ追従性
従来のアクリル系微弾性フィラーに比べ約6倍の伸び性能を有します。(360%:20℃)

補修適性
ひび割れの充てんや補修跡の隠蔽、仕上りの精度を高めます。

旧塗膜適性
優れた付着効果に加え高弾性塗膜にも対応可能です。

性能試験データ比較

試験項目		品質基準	結果 ダイヤアクレスフィラーダンセイ	結果 微弾性フィラー一般用	試験方法
低温安定性		塊がなく組成物の分離・凝集がないこと	○	○	JIS A 6909：2014 7.6
初期乾燥によるひび割れ抵抗性		ひび割れがないこと	○	○	JIS A 6909：2014 7.9
付着強さ		標準状態 0.7 N/mm2以上	1.7	1.6	JIS A 6909：2014 7.10
		浸水後 0.5 N/mm2以上	0.8	1.0	
温冷繰り返し試験		試験体の表面に、ひび割れ，はがれ 及び膨れがなく、かつ、著しい変色 及び光沢低下がないこと	○	○	JIS A 6909：2014 7.11
透水性B法		0.5 ml 以下	0.1	0.2	JIS A 6909：2014 7.13
耐衝撃性		ひび割れ，はがれ及び著しい変形がないこと	○	○	JIS A 6909：2014 7.15
可とう性		ひび割れがないこと	○	○	JIS A 6909：2014 7.25
ひび割れ充填性		基板の溝の部分に、塗膜のひび割れ及び穴がないこと	○	○	JIS A 6909：2014 7.30
伸び	20℃時	伸び率 120%以上	350	57.5	JIS A 6909：2014 7.26
	-10℃時	伸び率 20%以上	60	3.2	
	浸水後	伸び率 100%以上	190	規格無し	
	加熱後	伸び率 100%以上	150	規格無し	

BUILDING TRUST

可とう形改修塗材・防水形複層塗材

ダイヤアクレスフィラーダンセイ

標準施工工程

〔可とう形改修塗材E仕様〕

工程		材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間 工程内	間隔時間 工程間	施工器具
1	素地調整	各改修工事仕様に基づいて、劣化部分のケレン、補修、汚れの除去などを行って下さい。						
2	下塗材	ダイヤアクレスフィラーダンセイ 清　水	16kg 0.8～1.6リットル	0.3～0.5kg/㎡ 32～53㎡/缶	1	–	16時間 以上	中毛ローラー
	下塗材	ダイヤアクレスフィラーダンセイ 清　水	16kg 0.6～1.0リットル	0.8～1.0kg/㎡ 16～20㎡/缶	1	–	16時間 以上	多孔質ローラー
3	上塗材	各種弾性用上塗材	各製品仕様に基づいて施工して下さい。					

※ 乾燥時間は、標準状態（23℃、50%RH）での時間を示します。
※ 既存塗膜の形状や素材、塗装方法、環境などによって所要量が増減することがあります。
※ シリコン、フッソ樹脂塗料下地は別途お問い合わせ下さい。
※ 既存塗膜の劣化が著しい場合やセメント系下地の場合は、ダイヤガンコシーラーマイルドまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。
※ ダイヤアクレスフィラーダンセイを中毛ローラーで施工する場合、弱溶剤・強溶剤タイプの上塗材を用いるケースに限り、浸透した溶剤成分による膨潤等の不具合が発生することがあります。
※ ダイヤアクレスフィラーダンセイの塗膜が薄い場合、旧塗膜の種類によっては仕上材のリフティング現象（縮み）が発生する事があります。 特に溶剤・弱溶剤の上塗りを使用する際、ダイヤアクレスフイラーダンセイを多孔質ローラーでの施工、もしくは中毛ローラーで施工する場合は2回塗などの処置により0.6kg/㎡以上の塗布量を確保を推奨します。

〔防水形複層塗材E仕様〕

工程		材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間 工程内	間隔時間 工程間	施工器具
1	素地調整	〔新築〕各下地に対して、標準仕様書に基づいた処置を行って下さい。 〔改修〕各改修工事仕様に基づいて、劣化部分のケレン、補修、汚れの除去などを行って下さい。						
2	下塗材	ダイヤワイドシーラー 清　水	15kg	0.1～0.15kg/㎡ 100～150㎡/缶	1	–	2時間 以上	中毛ローラー 刷毛、エアレス
3	主材下塗	ダイヤアクレスフィラーダンセイ 清　水	16kg 0.6～1.0リットル	1.0～1.2kg/㎡ 14～16㎡/缶	1	–	5時間 以上	多孔質ローラー
4	主材上塗	ダイヤアクレスフィラーダンセイ 清　水	16kg 0.6～1.0リットル	1.0～1.2kg/㎡ 14～16㎡/缶	1	–	16時間 以上	多孔質ローラー
5	上塗材	各種弾性用上塗材	各製品仕様に基づいて施工して下さい。					

※ 乾燥時間は、標準状態（23℃、50%RH）での時間を示します。
※ シリコン、フッソ樹脂塗料下地は別途お問い合わせ下さい。
※ 既存塗膜の形状や素材、塗装方法、環境などによって所要量が増減することがあります。

適用上塗材

製品名	特性 安全性	荷姿	耐候性	耐汚染性	主要成分
ダイヤスーパーセランフレックス	水系	2液	超耐候性	超低汚染形	変性無機
ダイヤセラコートアクア	水系	2液	高耐候性	超低汚染形	セラミックハイブリッドシリコン
ダイヤパーマルシリコンD	水系	1液	高耐候性	低汚染形	ハルスハイブリッドシリコン
ダイヤパーマルウレタン	水系	1液	標準	標準	反応硬化形ウレタン
ダイヤ2液ナチュラルシリコンD	弱溶剤系	2液	高耐候性	超低汚染形	セラミックハイブリッドシリコン
ダイヤナチュラルウレタンD	弱溶剤系	2液	高耐候性	超低汚染形	セラミックハイブリッドウレタン

施工・管理上の注意

【塗装面の調整（新設・改修共通）】
①屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。
【塗装面の調整（改修）】
①各現場の改装工事仕様に基づき劣化部分の補修や既存塗膜の処理（ケレン、清掃、高圧水洗浄）などを行なって下さい。
②脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
③チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。
【材料の保管・管理】
①開缶した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5～35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分撹拌し、変質の有無を確認して下さい。
【施工】
①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨（雪）養生をして下さい。
②材料は使用前に十分撹拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
③材料は付着乾燥しますと取れませんので、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全に行ない、施工時建物の周辺に飛散しないように注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと斑が残りバリとなります。
④乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
⑤コンプレッサーを使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
⑥下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
⑦施工にあたっては、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げて下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因になります。
⑧施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
⑨本施工に入る前に試験塗りを行い、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりがムラにならないよう確認して下さい。
⑩希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上らないことがあります。特に濃色や下地の吸い込みがない場合等は少なめに希釈して下さい。
⑪常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
⑬一度に厚く塗ると色分れや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
⑭塗装下地の差によって、塗布量が変わる場合があります。
⑮フッ素や無機系などの難接着塗装処理がされている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄の営業所へご相談下さい。
⑯可使時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。⑰使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。
⑱乾燥時間は、温度、湿度および、風等により差異が生じます。
【安全衛生上の注意】
①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
②取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行って下さい。
③子供の手の届かない所に保管して下さい。
④作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
⑤廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
⑦誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
⑧中身を使い切ってから廃棄して下さい。
⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには医師の診断を受けて下さい。
⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
【その他】
①その他、詳しくは最寄の各営業所へお問い合わせ下さい。
②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意点については仕様書等をご確認下さい。
③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意点については安全データシート（SDS）をご確認下さい。

※窯業系サイディングパネル等、蓄熱性が高い下地やPC板、GRC板等への施工は避けて下さい。必要上塗布する場合は営業所にご相談下さい。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たに **シーカ・ジャパン株式会社** としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト https://www.dia-dyflex.jp/ にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

'23.06. 300 SJ

シーカ・ジャパン株式会社
東京都港区元赤坂1-2-7 赤坂Kタワー7F　TEL. 03-6434-7291

BUILDING TRUST